

平成30年度・31年度（令和元年度）

熊本県教育委員会指定

公益財団法人熊本県学校保健会委嘱・一般財団法人熊本県PTA教育振興財団委嘱

『防災教育研究推進校』研究発表会

研究主題

根拠をもとに正しく判断し、
主体的に行動する生徒の育成

～つながりを大切にする「まつしま学習」の実践を通して～



令和元年11月19日（火）

上天草市立松島中学校

研究の構想

学校教育目標
人間尊重の精神を基底におき
知徳体が調和し
生きる力に満ちた生徒を育成する

めざす学校像

- ・明るい挨拶と笑顔のあふれる学校
- ・一人一人が大切にされ、向上する学校
- ・地域に信頼され、地域とともにある学校

めざす生徒像

- ・心を磨き、やさしい生徒
- ・自らを鍛えたくましい生徒
- ・自ら学び生かす生徒
- ・新しい校風を創る生徒

研究主題

「根拠をもとに正しく判断し、主体的に行動する生徒の育成」
～つながりを大切にする「まっしま学習」の実践を通して～

授業研究部

授業を通して
防災意識を高める

自治活動部

自治活動を通して
主体性を育む

地域連携部

地域連携の取組を
通して絆を深める



主な実践

授業・カリキュラムの編成
研究授業の実施
熊本地震関連教材の活用



主な実践

防災プチ学習の実施
現地研修、児童生徒会合同防災会議の実施
生徒会主導の避難訓練の実施



主な実践

家族防災会議の実施
地域連携型総合防災訓練への参加
防災減災通信の発行

主題設定の理由

中学校新学習指導要領第1章総則では、中学校教育の基本と教育課程の役割の中で安全に関する指導が謳われており、地震や火災等の災害が発生した場合に、状況を的確に判断し、落ち着いて適切な行動ができる能力や態度を生徒一人ひとりに育成していくことが必要である。その育成のためには、防災に関する指導や、非常時の対応等の新たな安全上の課題に関する指導を一層重視し、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにすることが大切である。

平成28年に発生した熊本地震により、災害の恐ろしさとともに、今まで経験したことのないような様々な対応を迫られた現状がある。生徒がこの経験をいかし、自然災害や防災に関する地域への理解を深め、今後も想定される様々な自然災害に対し、「命を守り抜くために主体的に行動する（自助）」「自他の生命を尊重し、互いに力を合わせて助け合う（共助）」のために主体的に行動する態度を育成していくことが大切であると考え、本主題を設定した。

研究の仮説

【仮説1】授業を通して防災意識を高め、主題に迫る

各教科において、災害と関連のある単元等について教科間の連携や配列、学年間の系統を考慮し、授業実践を行うことで、生徒の防災意識が高まり、正しい知識や判断力、行動力を身に付けることができるであろう。

【仮説2】自治活動を通して主体性を育み、主題に迫る

これまで本校が培ってきた生徒による自治活動をベースにして、避難訓練や災害時の避難所開設等を経験することで、今後も想定される様々な自然災害の際に、生徒がより主体的に行動できる力を身に付けることができるであろう。

【仮説3】地域連携の取組を通して絆を深め、主題に迫る

家族防災会議や総合防災訓練、防災に関する講話等を通して家庭や地域との絆を深めることで、生徒が自己肯定感や居場所を自覚し、主体的に所属集団や社会の生活向上や安全・安心な環境づくりに参画しようとする態度が身に付くであろう。

「まっしま学習」とは

「まっしま学習」

言語活動「めあて」「主活動」「まとめ」の整合のとれた授業スタイル



【「まっしま学習」の教室掲示用ポスターから】

ま…まず、準備

- ・授業に必要な道具の準備や1分前着席を徹底する。

つ…つかもうめあて

- ・授業の流れボードで、授業の見通しを持つ。
- ・赤囲みされためあてを確認し、授業の課題や目標を把握する。

し…しっかり考動

- ・しっかり自分の考えを持ち、発表する。
- ・話し合いマニュアルや話し合いのステージを活用し、ペアやグループで共同学習（言語活動）を行う。

ま…まとめよう

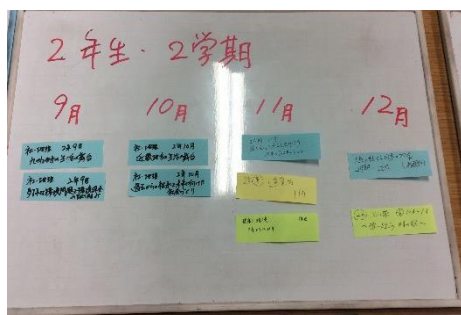
- ・赤囲みされた授業のまとめをノートに記入し、学習内容の定着をはかる。



【仮説1】授業を通して防災意識を高め、主題に迫る

実践事例 授業・カリキュラムの編成

平成 30 年 4 月に全職員で、新学習指導要領が示すカリキュラム・マネジメントの三つの側面に立脚し、防災と関連のある授業を洗い出し、「授業・カリキュラム表」の作成を行った。授業を通じて生徒の防災意識を高めるためには、全職員が「継続的に」「連携して」防災教育の視点を持った授業作りを行う必要がある。そこで、議論を行いながら、教科等横断的な視点で、配列を行っていった。



実施月	教科	単元名（道徳は教材名）	防災の視点
5月	社会	新しい文化と生活	関東大震災の記憶
	家庭	地域と家族	地域の方々とのつながりの重要性
	保健	健康の成り立ち	避難所生活でのストレス解消法
6月	国語	「情報発信」について考えよう	震災時における正確な情報選択
	社会	持続可能な社会に向けて(歴史)	防災・エネルギー面での日本の課題
7月	社会	持続可能な社会に向けて(公民)	原子力発電のメリット・デメリット
9月	英語	To our Future Generations	東日本大震災を未来に語り継ぐ

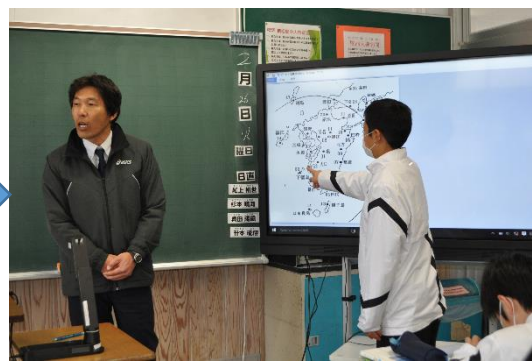
実践事例 研究授業の実施

生徒が自然災害に対して、危険を回避する行動を主体的にとることができるようにするためには、防災についての基礎的な知識を身に付けている必要があり、確かな知識があってこそ実践的な能力や態度が発揮される。その視点に基づき授業研究を行った。また、平成 28 年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用も行った。

数学 1 年生「平面図形」3点から等距離にある点を見つける（震央を作図する）授業



①地震のゆれがどのように伝わっていくのかを水槽に水を入れて確認している様子



②理科の授業で行った震央、ゆれはじめるまでの時間と震央からの距離の関係を振り返っている様子



③ゆれはじめる時刻が同じ場所は震央からの距離が同じであることに気づき、作図をはじめている様子



④ゆれはじめる時刻が同じ場所 3点から等しい距離にある地点を探せば良いことを説明している様子

【仮説2】自治活動を通して主体性を育み、主題に迫る

実践事例 防災プチ学習の実施

生徒の防災への意識を高め、知識を深めることを目的に、朝自習や放課後の15分間を利用して、生徒会が主体となって学習活動を行った。学習内容に関しては、防災主任を中心として、研究組織の自治活動推進部と生徒会執行部とが話し合いの場を持ち、綿密に協議を行った。その上で、生徒と教員とが共に協力してプレゼン資料等を作成し、計画的に実施した。

防災プチ学習（協議型）の準備から実践までの流れ



「大雨洪水から身を守ろう」をテーマに防災プチ学習を行っている様子

実践事例 現地研修、児童・生徒会合同防災会議の実施

平成30年8月9日(木)に、西原村立西原中学校の生徒たち及び先生方との交流会や崩落した阿蘇大橋の再建現場視察などの現地研修を実施した。この研修は、生徒たちの「被災地に行ってみよう」として「自分たちに何かできないか考えよう」という強い思いから企画され、実現したものである。

令和元年7月30日(火)に、上天草市立松島中校区における「児童・生徒会合同防災会議」を行った。この会議は、「本校が取り組んでいる防災教育を、小学生にも広げていきたい」という生徒会執行部の要望に応える形で実現したものである。小中の垣根を越えて活発な意見交換を行う姿が見られた。

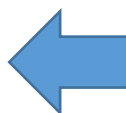


実践事例 生徒会主導の避難訓練の実施

本校では生徒会主導の避難訓練を定期的の実施している。生徒たちが「自分たちが被災した時に何かできることはないだろうか」と考えたことがきっかけとなっている。総合防災訓練等において、生徒会では、委員長を中心として各種委員会ごとに避難所開設に向け、準備を行ってきた。設営等における役割分担はもちろん、「実際に松島中学校が避難所になった場合、委員会として何ができるか」という話し合い等も重ねた上で、訓練に臨んでいた。

「実際に松島中学校が避難所になった場合、委員会として何ができるか」

- ①避難所開設に向けた会議
（どこに・何を・どのように準備するのか自分たちが考えるすべてのことを想定して）



避難訓練（シェイクアウト）後



- ②避難所開設に向けた準備
（体育館で休憩や寝泊まりされることを想定した畳の設置や車で避難をされる方への駐車場の確保・テントの設置など）



- ③避難所開設
（長期の避難生活を想定しての「段ボール」を用いた間仕切りやベッドの作成、「非常食」や「保存水」を用いての炊き出しなど）



- ④振り返り・意見交換会
意見交換会では「高齢者の方や妊婦の方、病気をされている方など様々な人が来られると思うので、トイレや浴室など衛生面の管理が重要」などの意見が出された。



【仮説3】地域連携の取組を通して絆を深め、主題に迫る

実践事例 家族防災会議の実施

家族防災会議とは、災害に備える家族同士の話し合いのことである。東日本大震災や熊本地震の教訓を生徒に伝える中で、大切な家族の命を、突然襲ってくる災害からどう守るか定期的に話し合いを持たせたいと考え、夏休みを利用して実施した。「家族が離れ離れのときの安否確認をどう行するか」、「住んでいる地域の避難場所はどこか」、「子どもが通学途中だったらどうするか」など、災害が起こる状況を具体的にイメージさせることも大きな目的であった。

【防災連絡カード】 家族みんなで内容を確認しながら、家族全員の分を作ってみましょう。

緊急時の連絡先		もしものとき、誰に連絡したらいいですか？	
名前	電話	名前	電話
住所		住所	
名前	電話	名前	電話
住所		住所	
〔掛かりつけの医療機関〕			
名称	電話	名称	電話
家族の避難場所			

「防災連絡カード」

【話し合いの進め方】

- ① 会議に参加しているメンバーの確認
- ② 自宅周辺で起こりうる自然災害の確認
※「上天草市防災マップ」を参照
- ③ 自宅周辺にある緊急避難場所の確認
- ④ 在宅中に被災した時の避難方法の確認
- ⑤ 登下校中に被災した時の避難方法の確認
- ⑥ 会議を通して学んだことの「まとめ」

実践事例 防災減災通信「つなぐ」の発行

生徒だけでなく、家庭や地域の防災意識を高めることを目的として、定期的に「防災減災通信」を発行した。本校が取り組んできた防災教育の紹介から、もしもの時の備え、避難所設営における段ボールの使い方など、生徒が家庭でも話題にできるような内容になるよう工夫した。学校・家庭・地域を「つなぐ」一助になったと考えている。

防災減災通信「つなぐ」

「松島中防災減災通信」

発行日：令和元年7月19日
発行元：松島中学校
防災地域連携推進部

松島中学校の1年生は、6月18日(火)及び19日(水)に松島町の天草青年の家に集団宿泊教室に行ってきました。この集団宿泊教室とは、中学校へ入学した1年生を対象に「集団で基本的な生活態度を身につけさせるとともに、生徒同士そして教師と生徒の心のふれあいを深めさせ、規律・協力・友愛・奉仕などの精神を養うことを目的として」行われます。プログラムには「ハイキング、ペーロン、キャンドルの集い、奉仕作業」等がありますが、今年の初日の半日は「防災プログラム」を計画しました。内容は「ダンボールによる空間づくり」及び「新聞紙で皿やコップ及びスリッパ作り」の体験を行いました。今回は、生徒の様子と感想を紹介します。また、裏面には「新聞紙を使った紙食器の作り方」を掲載していますので、よろしかったら参考にして作られてみてはいかがでしょうか。

〇空間づくり体験

（生徒の感想）

（1）平成31年3月発行

松島中学校防災減災通信 つなぐ

～この一年の防災教育を振り返る～

つなぐ

松島中防災減災通信

発行日：平成31年3月
発行元：松島中学校
防災地域連携推進部

本校の現状

（1）平成31年3月発行

松島中学校防災減災通信 つなぐ

もしものときに備えよう

～家族の全員が備えるべき所に貼りましょう～

非常持ち出し品(防災リュック)

避難するときの注意点

正確な情報入手する

持ち出し品は最小限に

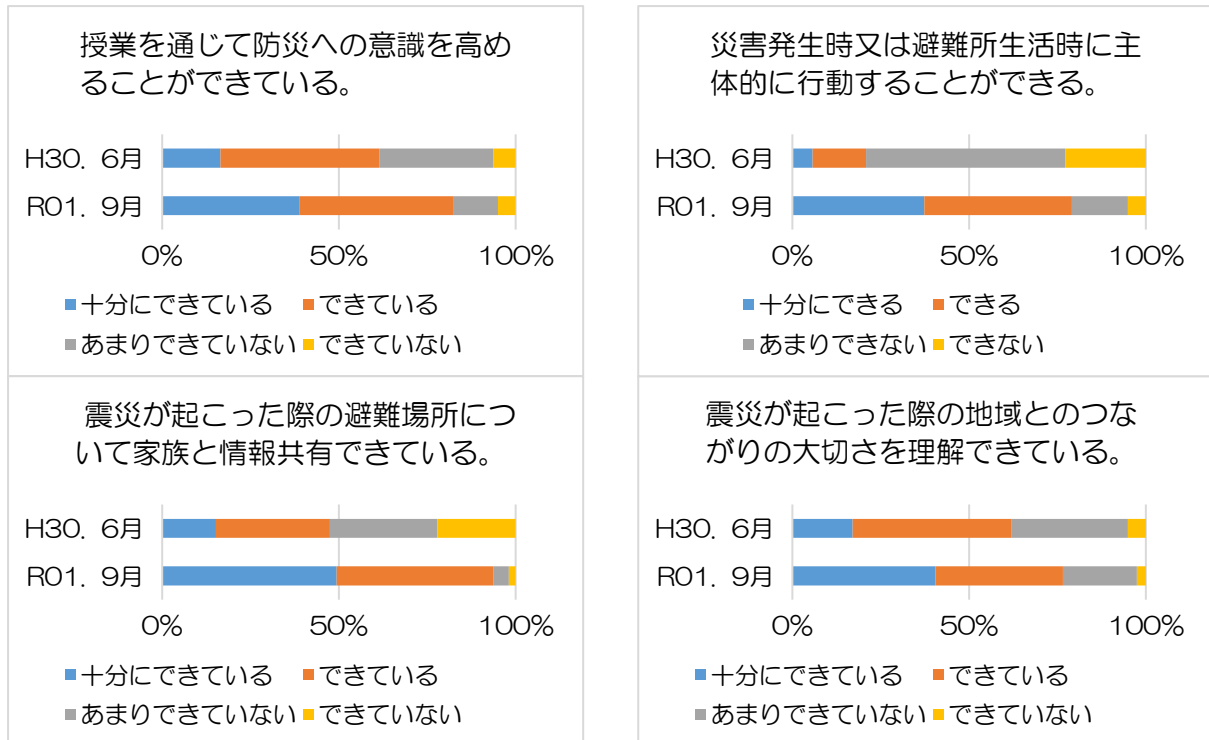
なるべく車は使わない

動きやすい服装、靴で

事前に家族で話し合おう

一緒に避難場所へ避難する

生徒アンケート結果から見える成果と課題



- 防災の視点を常に意識した授業づくりを行ってきたことで、生徒の防災意識が高まってきている。
- 様々なことを想定した避難訓練などを定期的に行ったことで、「災害発生時等に主体的に行動できる」と自信を持って答える生徒が増えている。
- 防災連絡カードを利用した家族防災会議、総合防災訓練等を実施したことで、保護者・地域の防災への意識の高まりが見られた。
- 実際に生徒たちの知識がどれだけ深まり、判断力や行動力が身についているかについて、どのような検証を行っていけばよいかについては課題である。
- 生徒の主体的な行動について大きな伸びは見られるものの個人差が大きい。今後は主体的な行動をとることができない生徒への支援の在り方を考える必要がある。
- 地域とのつながりの大切さを理解はできているものの「地域の人たちとはあまりつながりがない」という感想も見られ、地域との連携については今後の課題であるといえる。

生徒の姿から見える成果と課題

- 実際に行った避難所開設の際には、避難所で生活する人たちの気持ちを考え、声をかけたり誘導をしたりする姿が見られた。
- 生徒会主導で行ったブラインド型避難訓練の際にも、落ち着いて自分の身を守る行動や避難場所への移動等ができていた。
- より深く学習することにより「実際にその状況になってみないとわからない」という不安を口にする生徒も見られた。